

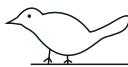
[特集]近頃のそよかぜ。各事業所からの近況報告。

そよかぜだより

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第127号

発行2016.10.16
年4回発行



社会福祉法人そよかぜ
羽村市栄町3-3-1
042-578-0855
fax.042-578-0466

当 法人の原点は、障害を抱えられた方の親たちを中心^{てん}に地域の人たちが集まり、作業所を作る目的で活動されたところから始まります。この方たちが休日を返上して朝から晩まで身を粉にし、手弁当で資源回収等を行い、そこでは、地域の方々に古新聞やダンボール等の提供を呼びかけるためのチラシと機関紙が配られていました。

はじめは小さな輪から徐々に現在のそよかぜを支えていた大大きな輪になってまいりました。

当法人の経営理念にあるように「人としてあたりまえの生活をあたりまえに送ることができる社会」の実現を目指に障害福祉事業を各事業所にて取り組んでいます。その事業のなかで、利用者の作業活動においてもお世

話になっている企業様など先達の方々が築いていただいたものが今日でも礎として息づいています。時は流れても移り変わりましたが、障害福祉の向上を目的に地域の方々の温かいご支援を得られてきたのは、先達の方々の活動はもとより、広報活動が担ってきた役割も相応にあったと感じています。

当法人の機関紙〈そよかぜだより〉では、先達の想いを引き継ぎながら障害福祉等の情報や当法人の活動等について発信し続けていくことを大切にしたいと常に考えています。

今回の特集では、当法人内の各事業所で、どのような活動を行っているかをお伝えするとともに、普段の活動とは違った視点も含めてお伝えします。



写真左、就職が決まり、送別会でもらった花束を手に満面の笑み。
写真右、就職先では主に清掃業務を担っています。

福祉作業所ひばり園 就労移行支援事業 主任 根岸 徹

就労移行支援では一般企業への就職に向けて日々活動を行っています。本年度は9月末までに3名の就職が決まりました。それぞれ清掃や食品関係など、希望していた仕事に就くことができました。ひばり園とは違う職場環境に一日も早く慣れるようにと、皆さん必死にがんばっている様子が伝わってきます。そんな気持ちに引っ張られるように、私たち職員も全力で職場定着支援を行っています。それぞれの職場でやりがいを見つけて活き々と働くだけでなく、新たな課題が見つかることもあります。働き続けていくことは簡単なことではありません。就労移行支援では職場定着支援にも力を入れ、皆さん安心して長く働き続けられるよう支援しています。また、現在在籍している4名の利用者さんたちも、就職していった先輩たちの背中を見て、夢を膨らませています。

福祉作業所ひばり園 就労継続支援B型事業 支援員 浮須裕子

普段は近隣の企業や工場からいただいている作業を頑張り、工賃を稼ぐことに生きがいを持って働いています。ひばり園の作業室は一階と二階に分かれています、作業室ごと



美味しいお肉と野菜をたくさん食べて、みなさん嬉しそう。

に出かけるのは、一年に一度の楽しみです。一階作業室は今年も埼玉県にあるサイボクハムに出かけ、恒例のバーベキューを楽しんできました。食べること、遊ぶことは好きですが仕事も大切なことで、当日は出発時間ギリギリまで作業をがんばりました。ゴールデンポークは美味しかったけど、もっともっと食べたかったと感想をもらいましたが、満足度はかなり高かったです。



ペアリング作業をしている黒河内さん。

「最近の作業室」黒河内慶子

私が通っているひばり園の二階では、いつもやっているペアリング作業に、4月頃から新しい型が入り、皆さんとやっています。他にも牛乳屋の会社から牛乳パックを足で踏んで平たくして片づける作業を毎日1回、皆さんとやっています。グリーンパックス(羽村市燃えるゴミ中袋の袋詰め作業)を多く皆さんと折って仕事をしています。作業室の仲間の中に、作業中に話をしていて、怒って「モウーモウ」と牛のように言っているのが、笑っていて面白いです。



5周年記念の飾り付けを、みんなで作りました。

リサイクルショップくれよん 就労継続支援B型事業 支援員 斎藤貴絵

今年の春、くれよんは【福祉作業所】として再スタートして5周年を迎えました。現在日替わりで14名の障害のある利用者さんと共にお店を営業しています。どの利用者さんも、く

れよんで働いている自分にプライドを持ち、いつもと違う服装にするなど、くれよんでの勤務を楽しみに、やりがいとなっています。これも、皆様からのたくさんのご提供品とお買い上げ、お店でのご理解など、ご来店下さいます皆様のおかげです。ありがとうございます。5周年を記念して、全品半額セールを実施したところ、5日間で1,200点もの商品をお買い求めいただきました。大変ご好評をいただきまして、7月にも開催し、5日間で1,800点をお買い上げいただきました。店内や駐車場で働く利用者さんにお声掛け頂く機会が増えたことも嬉しいことです。これからも利用者さんと一緒に、足を運んでよかったと思えるお店を目指していきます。

福祉作業所スマイル工房 就労継続支援B型事業 所長 河村 茂

軽作業は〈イヤホンリフレッシュ作業〉と〈農機具部品個装作業〉の2本立てで昨年度に比べ順調に受注量を増やしてきました。パン・クッキー作業は“はむりん”ロゴが入ったパッケージに入れた〈はむりんミックス〉を販売しました。羽村市ホームページに掲載を依頼し紹介したところ、早速大口の注文が入りました。上半期の売上は全体的に好調で利用者工賃の平均額も上昇しました。

毎年開催される【はむら夏まつり】は、作業班の垣根を越えて利用者皆で出店販売するイベントです。今年も出店し、出店場所や天候に恵まれたおかげで、過去最高の売り上げ額となり達成感を感じられた利用者も多かったようです。



はむら夏まつりに出店したときの様子。

また、毎月様々なレクリエーション活動(歌・スポーツ・近隣施設との運動会・カラオケ他)を行い、気分転換や仲間との交流の機会を設けています。9月には富士・河口湖方面に1泊旅行に出かけましたが、普段あまり遠出をしない利用者にとって、ご家族と離れて他利用者と一緒に旅を楽しめたのはいい思い出になったと思います。



盛大に行われた恒例の就職・勤続を祝う会の様子。

羽村市就労支援センターエール 就労支援コーディネーター 中島 紗

エールでは就職を希望される方からのご相談や、就職後も安定した勤務ができるように会社へ訪問する等の定着支援も行っています。また就職の準備が必要な場合は作業所の見学同行も行います。今年度の上半期は9名の方(内訳:知的1名、精神6名、身体2名)が、事務(PC入力)、メール集配、倉庫内作業などで就職されています。またエールのイベントの一つに毎年行っている【就職・勤続を祝う会】があります。勤続している方や新たに就職した方に出席いただいている。会の内容は、エールから一人ひとりに応援メッセージをお渡したり、参加者からは趣味や日頃取り組んでいるものの紹介等です。また就労への意識を高める為に、祝う会にはひばり園の移行支援の利用者さんも出席されています。

指定特定相談支援事業所ゆい 相談支援専門員 長塚あづさ

ゆいでは、平成28年9月末現在、65名の利用契約者数となっており、障害のある方々が地域のなかで、生きがいを持った生活が送れるよう計画の作成に努めています。相談支援専門員として日中活動に留まらず、利用者一人ひとりの生活全般を捉えていくことが大きな特徴でもあります。

相談支援専門員として、利用者やご家族等とも面談を通して困っていることなど課題や目標を整理し、障害福祉サービス等を効果的に組み立てていただけるよう自問自答しながら作成しています。利用者の24時間、365日を念頭においた計画を考えていくことは責任の重さもあります。そんな中、計画相談を利用されている方から、これまでと違った姿や喜びの声を聞かせていただくことがあります。相談支援専門員としての喜びにも繋がっています。

平成28年度 上半期事業実施概況報告

堀内政樹 社会福祉法人そよかぜ施設長

本 年度も上半期(4月～9月)が過ぎました。4月に熊本地方を襲った大地震やその後の台風による東北や北海道の大きな被害など、自然の猛威が強く印象に残る半年でした。特に8月22日に首都圏を直撃した台風9号では、私たちの福祉作業所ひばり園も危うく床上浸水になるところでした。また、7月には相模原の障害者施設で痛ましい事件が発生し、日本中が

強い憤りと悲しみに包まれました。一方、ブラジルのリオデジャネイロで開催されたオリンピック・パラリンピックでは、日本選手団の大活躍が記憶に新しいところです。こうした中、私たちそよかぜが行っている各事業は、多くの皆様のご支援、ご協力をいただき、全体として概ね順調に推移することができました。

そよかぜは本年度、この6事業を行っています

社会福祉事業

法人本部

福祉作業所ひばり園
(就労移行支援・就労継続支援B型)

福祉作業所スマイル工房
(就労継続支援B型)

指定特定相談支援事業所ゆい

公益事業

羽村市障害者就労支援センター エール

収益事業

資源回収

以 下、各事業の上半期実施概況を報告します。
法人本部では、本年度から施行された社会福祉法人制度改革(改正社会福祉法)への対応、防災・防犯対策、10月に予定されている法人事業所交流会準備、その他、法人事業全般に係る管理事務等を行いました。

福祉作業所ひばり園就労移行支援事業の利用者3名が高齢者福祉施設等に就職し、新たに2名の方が利用を開始しました。昨年末より就労継続支援B型事業で先行実施している企業内作業に4月から合流し、一般就労に向けた支援プログラムの充実を図りました。**就労継続支援B型事業**では、今までの作業に加え、昨年末から開始した新たな取引先における企業内作業が順調に進み、同社から新たな仕事を受注することができました。ひばり園B型事業所の出張所であるリサイクルショップくれよんの売り上げも好調を維持しています。

福祉作業所スマイル工房では、施設移転計画の

具体化に向けた事務を進めるとともに、多くの利用者がパン・クッキーの製造販売や室内軽作業に取り組みました。9月15～16日は、富士・河口湖方面に一泊の宿泊訓練を行いました。あいにくの天候ではありましたが、楽しく有意義な宿泊訓練となりました。

指定特定相談支援事業所ゆいは、利用登録者数が65名となり、そよかぜの福祉サービス利用者及び利用希望者への相談やサービス等利用計画作成など行いました。平成27年1月にスタートした事業ですが概ね順調に進んでいます。

羽村市障害者就労支援センター エールは、就労中の方68名を含む105名の利用登録者を数え、それぞれの就労ニーズに合わせた支援を行いました。

資源回収事業は、ボランティアの皆様や地域の皆様のご協力をいただき、事故などなく順調に進めることができました。また、回収量は前年同期に比較し増加傾向にあり収益的にも好調でした。



【連載】

そよかぜのご近所さん

ここ羽村市近隣地域には、たくさんの福祉施設があります。それぞれの施設では、様々な特色を活かした取り組みを行っています。意外と知らないことも多い他の施設の様子、見せてもらいました。

〈第7回〉

地域活動支援センターI型事業 あおば

(羽村市福祉センター内)

おだやかな雰囲気の中、利用者のみなさんは創作活動やストレッチ、歩行トレーニングに励んでいます。この地域活動支援センターI型事業あおばには、主に身体に障害のある市内在住の方が通っています。上記活動の他にも、入浴支援や外出の訓練として日用品の買物に同行するなど様々なニーズに応えていきます。取材した日の午後はイオンモール日の出に出かけるそうで、利用者の方たちの会話からも楽し気にされている様子が伝わってきました。利用されている方々同士の交流も大切な時間で、相互の情報交換にもつながっているとのこと。「住み慣れた地域で生活できるよう必要なことをサポートし、ニーズへの対応を通じて、ご本人の生活の幅が広がることもやりがいの一つです」と、担当の山口さんから真摯に取り組んでいる熱意を感じました。

地域活動支援センターI型事業あおば

東京都羽村市栄町2-18-1

羽村市福祉センター内

☎042-554-0336 Fax.042-570-0621



1



2



3



4



5



6

1 昼食時の様子。この日のメニューはハンバーグということで、みなさん嬉しそうでした。食後はテレビを見ていたり、会話がはずんだりと、とても楽しそう。2 歩行トレーニングをしています。支援員の見守りのもと福祉センターの中を歩いて周ります。3 支援員のサポートでストレッチをしています。可動域や機能を維持するには、継続することが大事のこと。4 陶芸の創作活動をしています。この日は小鉢を作っていました。5 皮革を使った創作活動をしています。10月に開催される福祉まつりに向けて、コースターを作っています。6 福祉センターの中にあるあおばの訓練室。利用されている方が毛筆で書いた看板が展示されています。

不審者対応訓練を受けて

相模原市にある知的障害者施設「津久井やまゆり園」の殺傷事件は、障害福祉に携わる私たちだけでなく世間を震撼させる事件でした。同じ障害者を支援する施設で19名の尊い命が奪われ、大きな衝撃を受けました。この事件のあと、全国の児童や高齢者、障害者の福祉施設に防犯対策を図るよう国等から通知

が出されました。当法人においても福生警察署生活安全課の方々に来所していただき、法人内の全職員で不審者対応の訓練などが行われました。警察の方からは万が一、不審者が来たときの対応だけでなく、平常時において早期の対応や予防的な対策についても指導をしていただきました。事件を機に全国の福祉

コラム「福祉の時をつかむ」

施設での防犯体制などの取り組みが行われていますが、当法人も含め、ほとんどの施設で防犯対策がなされていなかったことが話題となりました。防犯体制を整えていく上で、閉鎖的な施設にならないよう防犯対策と利用者への支援を両立させることは難しい側面もあり大きな課題でもあります。

そよかぜホームページ <http://soyokaze-hamura.com>

各事業所からのお知らせ



福祉作業所ひばり園

今年に入ってから二つの新しい仕事を始めました。一つはスリーボンドワークス株式会社様からの仕事です。ボルトにチューブを装着し、パネルに差し込む作業です。簡単なように思われるかもしれませんのがとても細かい配慮がいるため難しいです。集中力を継続させながらみんな頑張っています。もう一つは、羽村市内にある羽村乳業様からの牛乳パックつぶしの作業です。近隣の施設などから回収された牛乳パックをつぶし段ボール箱にまとめ、資源として回収業者に出す作業です。毎日20分ほどの時間ですが、体を動かす機会にもなっています。仕事を頂けることに感謝しながら日々過ごしています。

リサイクルショップくれよん

暑さが続いた彼岸明けから、10月も半ばとなり、すっかり秋めいてきました。店内も秋色&ハロウィーン真っ盛りとなっています。ここから、冬服やコート、冬の小物も出していく予定です。秋から冬にかけて、みなさんの周りでも楽しいイベントが続くと思いますが、くれよんでは食器の半額セールが始まっています。ぜひお立ち寄りください。スタッフ一同、心よりお待ちしております。



福祉作業所スマイル工房

今年も立川防災館への災害体験にいきます。ここでは、震度7までの地震体験、火災が発生した時の脱出の仕方を体験します。楽しみながら、いざという時



にも慌てず対応する事を体で覚える貴重な機会として、また、電車やバスの利用に慣れる意味でも、毎年定例の行事として続けていきたいと思います。

障害者就労支援センター エール

「エール」は、羽村市より社会福祉法人そよかぜに委託された障害者就労支援事業です。羽村市在住の障害のある方を対象に、就職を希望している方や働いている方等からの相談を受け、支援を行っています。

利用時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後5時。今年度の第一土曜日開所は、11/5、12/3、1/7、2/4、3/4です。

※ご相談には予約をお願いします。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

特集の企画を考えるとき、「伝えたい、知ってほしい」という思いがあります。法人の事業所のことをお伝えすることが意外に少ないと気が付きました。書く人が違えば言葉や呼称の使い方も違います。どこまで揃える？この表現でいいのか？など編集担当で話し合うことが多かったです。葉にとらわれると木が見えず、木にとらわれると森が見えず。この号の目的、要点、伝えたいことは何なのか、伝えることの難しさを痛感した号になりました。

各事業所の連絡先



社会福祉法人そよかぜ事務局

☎042-578-0855

福祉作業所ひばり園

☎042-555-5512

福祉作業所スマイル工房

☎042-578-2723

リサイクルショップくれよん

☎042-578-2575

羽村市障害者就労支援センター エール

☎042-570-1233

指定特定相談支援事業所ゆい

☎042-555-5512